

「総合部会」の取り組み

部長：松川邦昭
 神原中：久高友明、田重子、玉城淳
 神原小：田島智代、小嶺陽子、新千賀子
 根間健太
 壺屋小：玉寄未紗、知花秋乃

1 取組の趣旨

本部会では、小中一貫教育における三校合同研修会の統一テーマ「自ら考える力を育て社会性を身につけた児童生徒の育成」のもと、地域人材や地域の職場などの地域教育資源を積極的に活用しながら、「総合的な学習の時間」における育てたい力の系統性を明確にし、9年間の連続性のある指導を確立することを目指す。

- (1) 探求的な活動や体験的な活動を取り入れることで、実感の伴った学びを仕組み、児童生徒の発達段階に応じた総合的な学習の内容を設定する。
- (2) 各学年で育てたい資質・能力及び態度についての系統表を作成し、9カ年で育てたい力を確認しながら、小中の指導内容に重なりがないようにする。
- (3) 小中の異学年交流会を中心とした社会参画の力を育成し、児童・生徒の生きる力（ルール、マナー、コミュニケーション能力、基礎的・汎用能力等）を育んでいく。

2 活動内容（様子）

- (1) 「総合的な学習の時間」の系統表の作成
 - ① 三校が、小学校低学年からの生活科等で身につけた力をいかし、その後、7年間で育てようとする資質・能力及び態度について系統表を作成して各校の教職員が互いに理解し合い、子どもの実態を共有していく。
 - ② 各学校が、取り上げる学習内容、学習事項を各学年の発達段階や成長過程に応じて整理する。

- ③ 小学校と中学校が、年間指導計画を基に学習内容の情報を交換しながら、児童生徒の学びの履歴を共有していく。

各学年の「総合的な学習の時間」に：

	3年(40時間)	4年(40時間)	5年(40時間)
各学年のテーマ	1. 地域 (3.5時間) 「えっぺん、わが町じまん」	1. 環境 (3.5時間) 「ごみ減量プロジェクト in 神原」	1. 「
学習方法に関すること	2. 国際理解 (5時間) ①自分の身近な事象の中から、自分の課題を見つけることができる。 ②自分なりの方法(インタビュー等)で課題を調べ理解することができる。 ③自分なりに、分かりやすくまとめ、伝えることができる。	2. 国際理解 (5時間) ①自分の身近な事象の中から、自分の課題を見つけることができる。 ②自分なりの方法(文献を中心に等)で課題を調べ理解することができる。 ③自分なりに相手に意識しながら、分かりやすくまとめ、伝えることができる。	2. ①身 た き
自分自身に関すること	④自分で課題を設定し、目標をもって学習することができる。	④自分の設定した課題を、見直しをもち、学習することができる。	④自 も き
社会性	⑥地域に興味・関心をもつことが	⑥地域の「環境」と自分の生活を	⑥地 域 性

【神原小学校「総合的な学習」における育てたい力】
資料別紙

各学年「総合的な学習の時間」におけ

	中学校1年(50時間)	中学校2年
各学年のテーマ	1 地域の産業や職業を知ろう 2 職業理解 3 職場訪問	1 地域、社会に学ぶ 2 社会体験学習 3 修学旅行
学習方法に関すること	①適切に課題を設定し、意欲的に学習することができる。 ②必要な情報を収集し多角的に分析し自分の考えを持つことができる。 ③学習を振り返り学んだ事を生活に生かすことができる。 ④自分の考えを筋道を立てて分かりやすくまとめ、伝えることができる。 ⑤情報機器を利用するなど様々な方法で相手に伝えることができる。	①職業に関して学習することができる。 ②事前学習での学び、自ら考察できる。 ③職業に関する学習の前 ④目的に応じて手段を選択 ⑤旅先で自ら感じたこと
自分自身に関すること	①自分の行動に責任を持ち、意志決定することができる。 ②目標を持ち、課題解決に向けて計画的に行動	①自己の将来を真剣に ②目標を明確にし、課題 に行動することができる。

【神原中学校「総合的な学習」における育てたい力】
資料別紙

- (2) キャリア教育に視点をあてた体験活動
 - ① 探求的な活動や体験的な活動の充実
小学校・中学校の学習課題や学習事項を整理しながら「職業や自己の将来（キャリア教育）」に視点をあてる。そして、総合的な学習を探求的に学習していく中で、気づきや自己の生き方を考える学習内容を小学校中学年、高学年、中学校と段階的に設定していく。また、学習活動が単なる体験や活動に終わることがないように、充実した連続性のある学習過程を生み出していけるように配慮して次学年へつないでいく。

(3) 異学年交流会を通じたコミュニケーション能力の育成

- ①「総合的な学習の時間」で学んだ成果や課題を中学3年生は中学2年生へ、中学2年生は中学1年生へ、小学6年生は5年生へ、小学5年生は4年生へ伝えていく。

体験したことや調べたことをもとに、感じたこと、気づいたことを文章や掲示物でまとめたり、コンピュータを使いプレゼンテーション技法を用いて伝えることで、他者と体験を共有し、協働・共生できる児童生徒を育成する。

- ②両小学校の6年生が中学校の「総合的な学習成果発表会」へ参加
神原小6年生、壺屋小6年生全員が、神原中学校1年生～中学3年生の総合的な学習成果舞台発表（プレゼンテーション）を参観しながら、将来への展望や自己の歩みを振り返る等、課題を持ちながら総合的な学習のステップアップを図った。

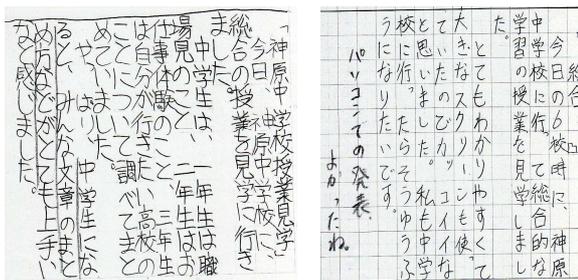


〈中学生による「総合的な学習成果発表会」〉



〈中学生の先輩から学ぶ6年生〉

(6年生の感想)



11月7日(水)「総合」
今日の5、6校時に神中に授業見
学まいきました。
職場見学、体験、高校見学の新
聞をつくって読んですごかったです。
私もあと中学生に入ったら、あ
んなのをやると、と勉強になりました。

3 成果と課題

(1) 成果

- ①各学年の発段階に応じた系統性のある単元配列を理解することができ、中学校へのつながりを共有することができた。
- ②学習していく過程で児童生徒に育てたい資質や能力、態度が身につくかどうかの視点を持ちながら、『各学年の「総合的な学習の時間」における育てたい力』の系統表作成に取り組むことができた。
- ③総合的な学習において「勤労の必要性や大切さ」「勤労意欲の向上」「将来の自分像の確立」等、児童生徒の興味・関心の高まりや探求活動が展開されるような単元内容を盛り込むことができた。

(2) 課題

- ①総合的な学習について、各教科、道徳、外国語活動、特別活動との指導内容や学校行事等、年間の見通しが持てるような関連を図る体制づくりが十分でない。
- ②三校の児童生徒の実態や、学校を取り巻く保護者や地域の特色が異なり、学校行事、地域行事の時期や内容が学校によっても違うため、扱う基本単元やプログラムの調整が難しい。
- ③小学校と中学校が互いの取り組みを企画し、共通理解を図るための移動距離と協議時間の確保が難しい。